

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問3で「持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」を合わせたものを《持っていると思う》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 食の安全・安心（問1～問3）

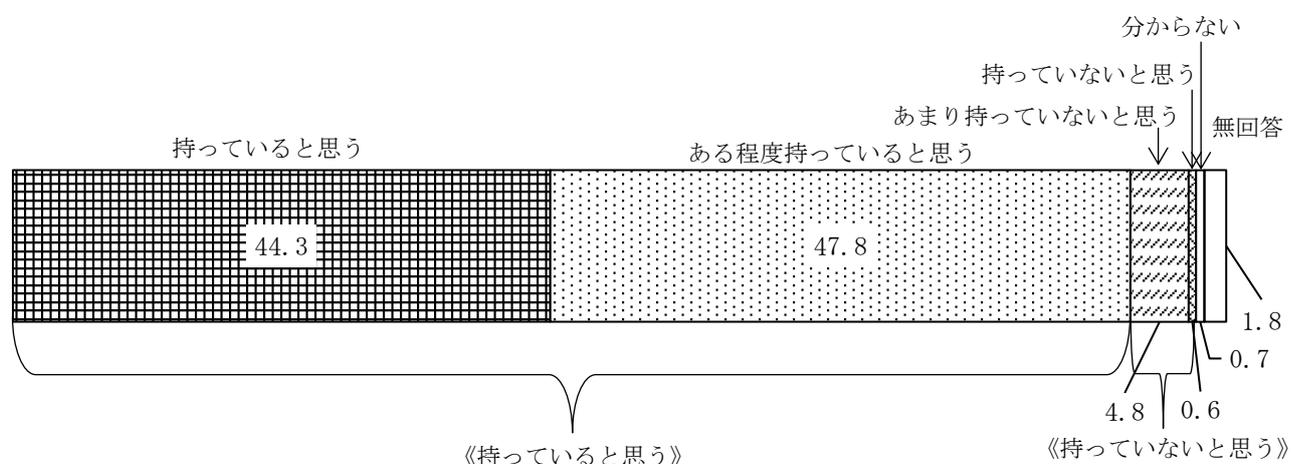
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるために必要な知識などについて調査しました。

▼食品を安全に食べるために必要な知識（問3）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（44.3％）と「ある程度持っていると思う」（47.8％）を合わせた《持っていると思う》は92.1％であった。

一方、「持っていないと思う」（0.6％）と「あまり持っていないと思う」（4.8％）を合わせた《持っていないと思う》は5.4％であった。〔図表1〕

図表1 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,905）（％）



2 食・食育（問4～問7）

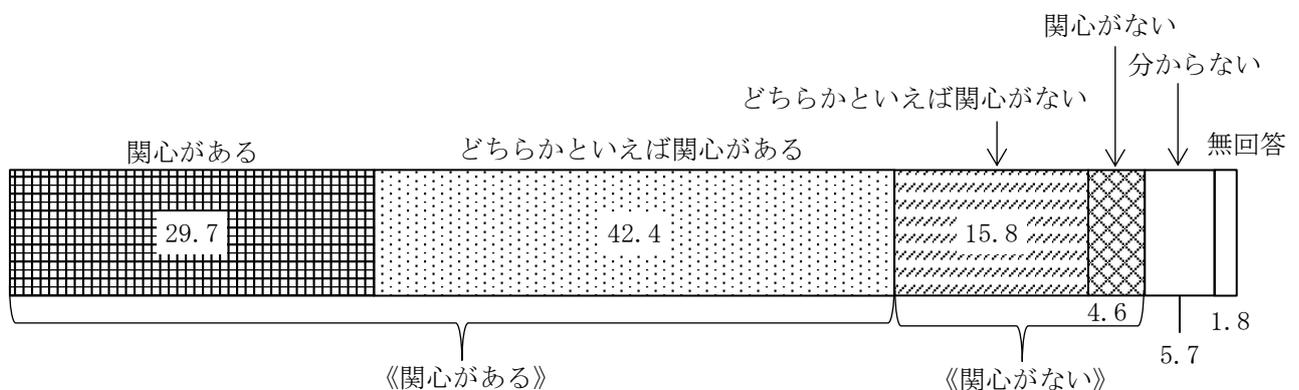
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

▼「食育」への関心（問4）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（29.7%）と「どちらかといえば関心がある」（42.4%）を合わせた《関心がある》は72.1%であった。

一方、「関心がない」（4.6%）と「どちらかといえば関心がない」（15.8%）を合わせた《関心がない》は20.4%であった。〔図表2〕

図表2 「食育」への関心（n=1,905）（%）



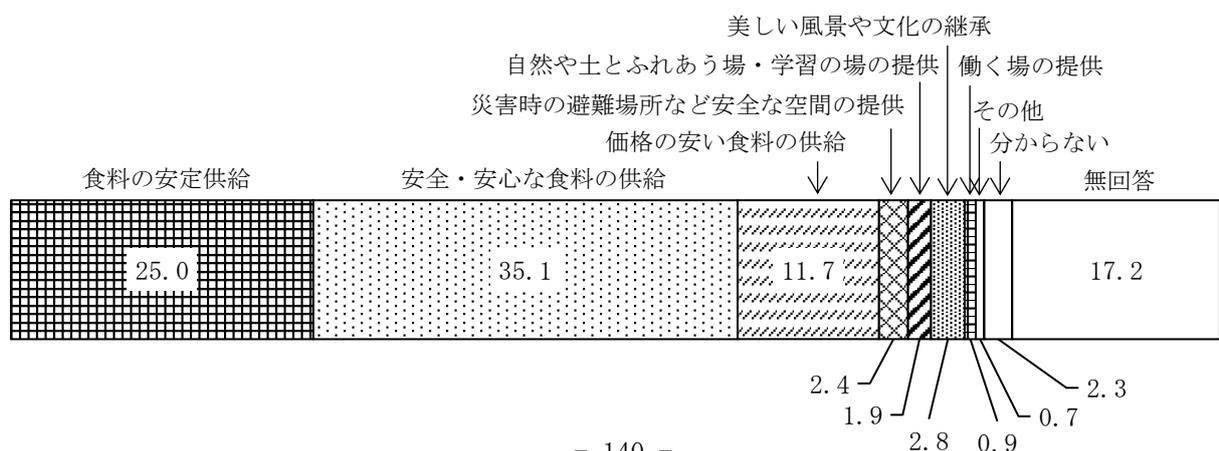
3 かながわの農林水産業（問8～問11）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、県の農業に期待する役割などについて調査しました。

▼県の農業に期待する役割（問8）

県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が35.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が25.0%であった。〔図表3〕

図表3 県の農業に期待する役割（n=1,905）（%）



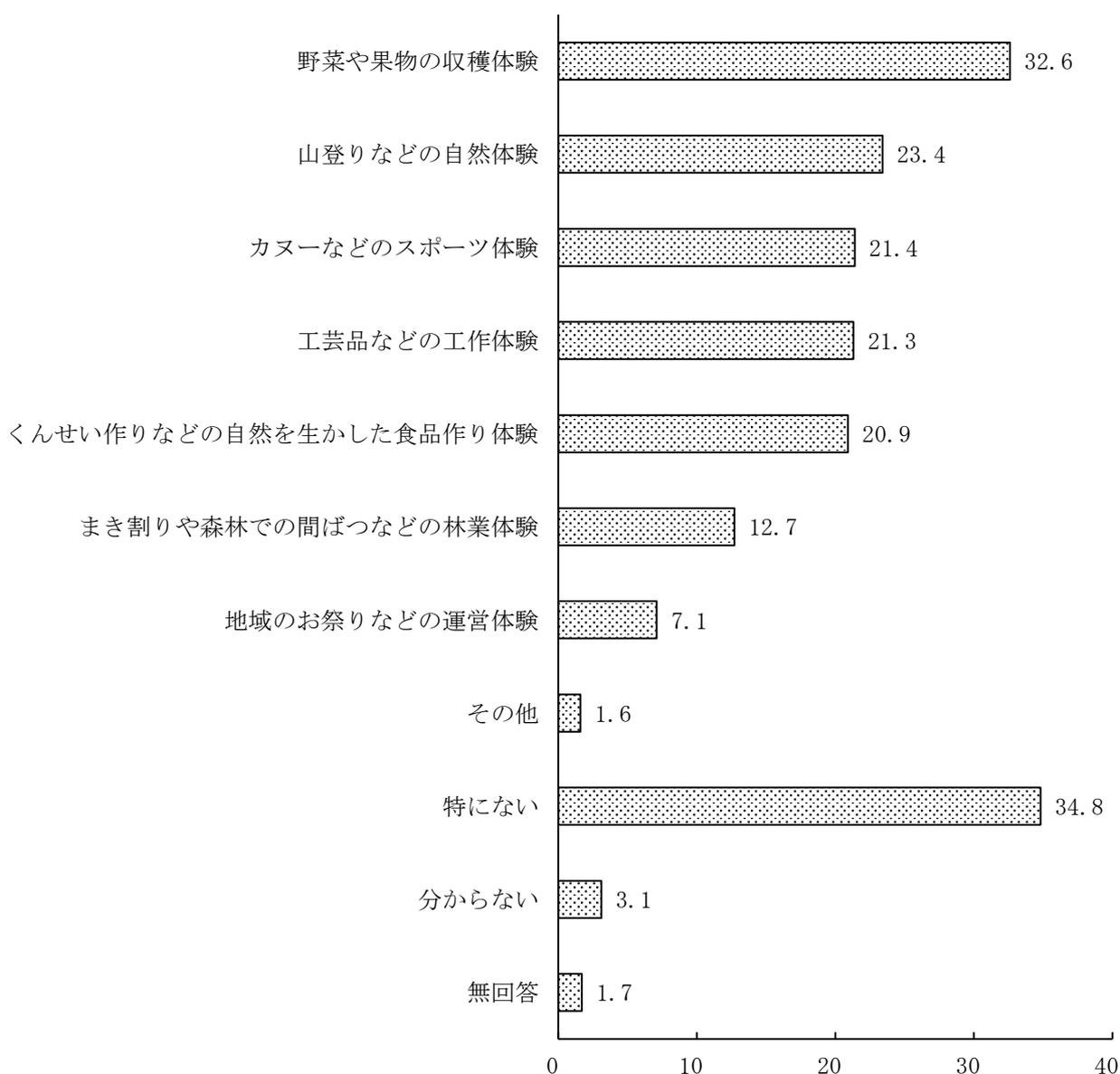
4 かながわの水源地域（問 12～問 14）

県では、水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、水源地域における交流を通じて、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでいます。今回、水源地域で参加したい活動などについて調査しました。

▼水源地域で参加したい活動（問 13）

水源地域で参加したい活動はあるか複数回答で尋ねたところ、「野菜や果物の収穫体験」が 32.6%で最も多く、次いで「山登りなどの自然体験」が 23.4%であった。[図表 4]

図表 4 水源地域で参加したい活動（複数回答）（n=1,905）（%）



5 地域社会との関わり（問15）

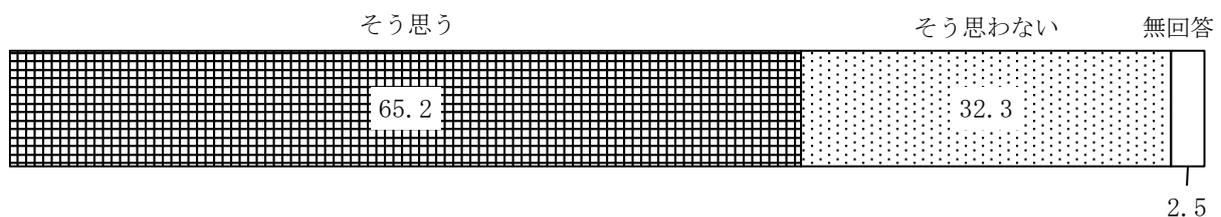
県では、人生100歳時代におけるコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを推進しています。今回、地域社会との関わりを大切にしている意識について調査しました。

▼地域社会との関わりを大切にしている意識（問15）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が65.2%であった。

一方、「そう思わない」が32.3%であった。〔図表5〕

図表5 地域社会との関わりを大切にしている意識（n=1,905）（%）



6 地域活動（問16～問18）

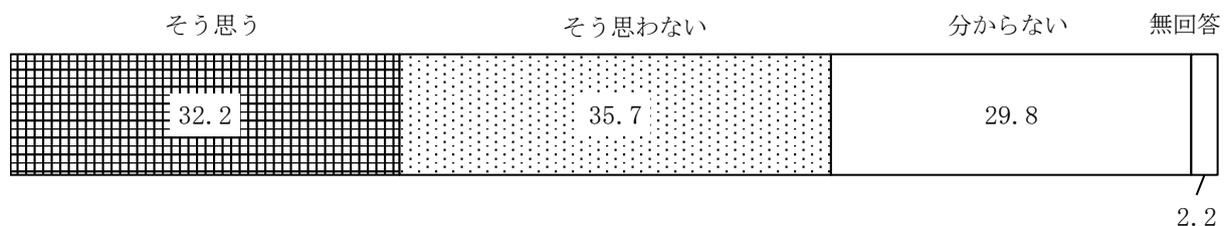
県では、急速な高齢化と子育て世帯や若者の流出による、地域コミュニティの活力低下などの住生活に係る課題解決に向けて、「多世代居住のまちづくり」などの施策を推進しています。今回、地域住民の意向を確認するため、地域活動への参加意欲などについて調査しました。

▼地域活動への参加意欲（問17）

地域活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「そう思う」が32.2%であった。

一方、「そう思わない」が35.7%であった。〔図表6〕

図表6 地域活動への参加意欲（n=1,905）（%）



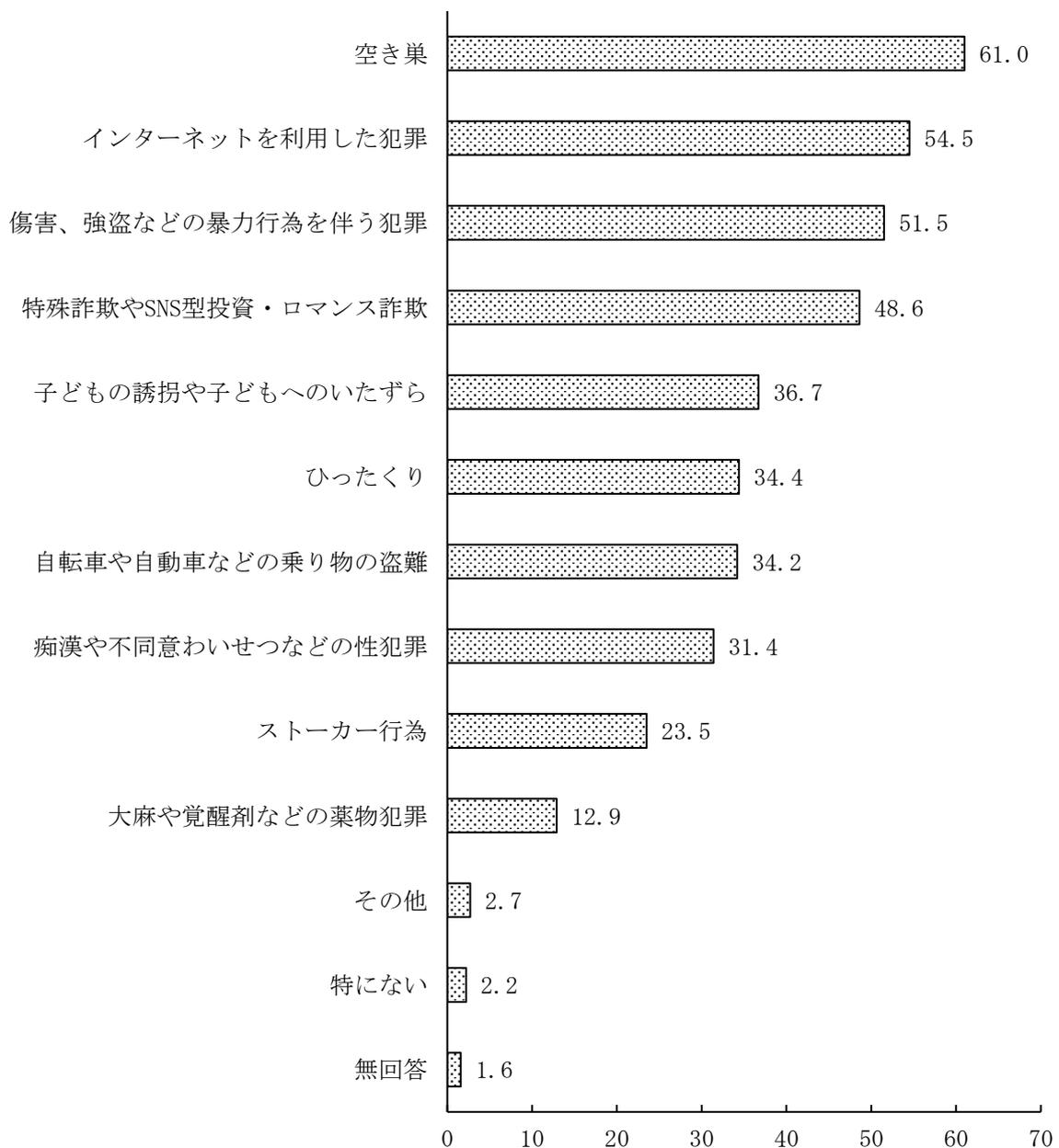
7 治安対策（問 19～問 21）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心してくださる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

▼不安を感じる犯罪（問 19）

不安を感じる身近な犯罪について複数回答で尋ねたところ、「空き巣」が 61.0%で最も多く、次いで「インターネットを利用した犯罪」が 54.5%であった。〔図表 7〕

図表 7 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1,905）（%）



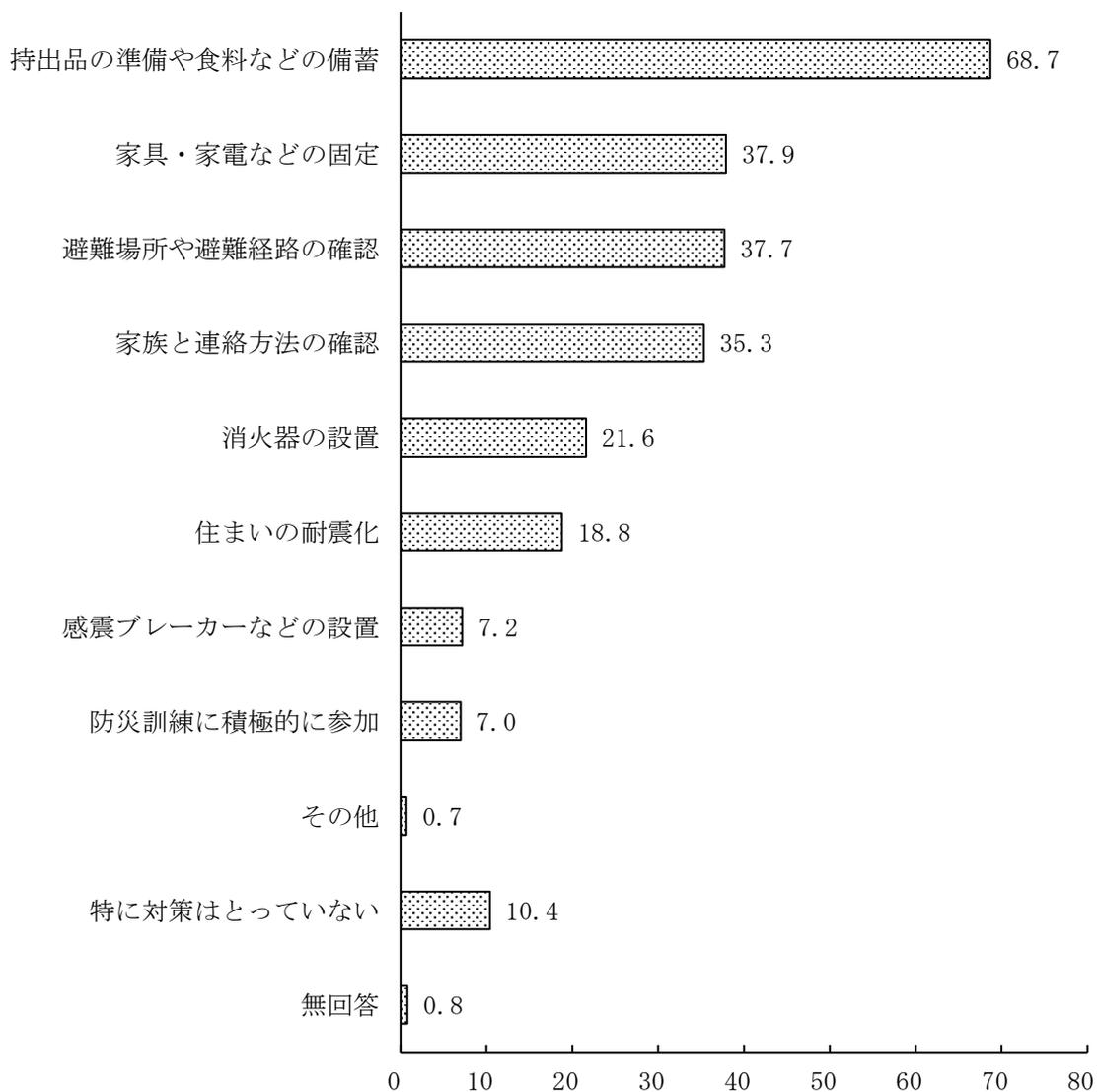
8 地震対策の取組み（問 22）

県では、「誰一人取り残さない」防災を目指して戦略的に取り組むためのアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、大きな地震に備えて家でとっている対策について調査しました。

▼大きな地震に備えて家でとっている対策（問 22）

大きな地震に備えて家でどのような対策をとっているかを複数回答で尋ねたところ、「持出品の準備や食料などの備蓄」が68.7%で最も多く、次いで「家具・家電などの固定」が37.9%であった。[図表 8]

図表 8 大きな地震に備えて家でとっている対策（複数回答）（n=1,905）（%）



9 自転車ヘルメットの着用（問 23）

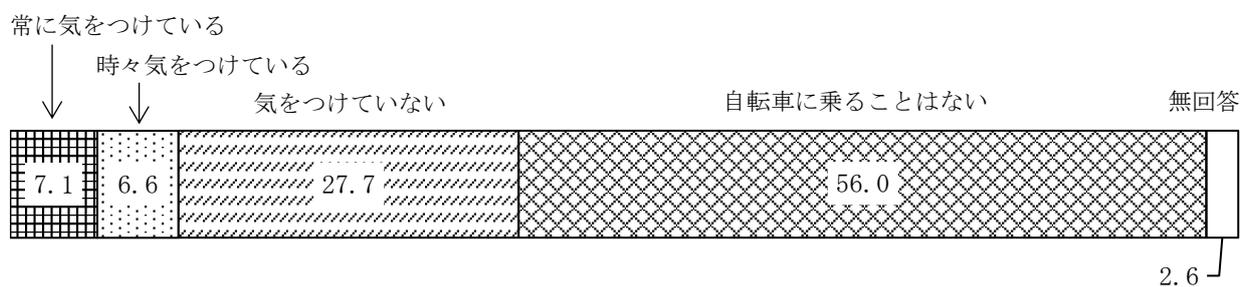
県では、「神奈川県交通安全計画」に基づき、交通事故のない安全で安心してらせる社会を目指して、交通安全対策を推進しています。今回、自転車ヘルメットの着用に関する意識について調査しました。

▼自転車ヘルメットの着用に関する意識（問 23）

自転車に乗るときは、ヘルメットを着用するよう気をつけているか尋ねたところ、「常に気をつけている」が7.1%、「時々気をつけている」が6.6%であった。

一方、「気をつけていない」が27.7%であった。[図表 9]

図表 9 自転車ヘルメットの着用に関する意識（n=1,905）（%）



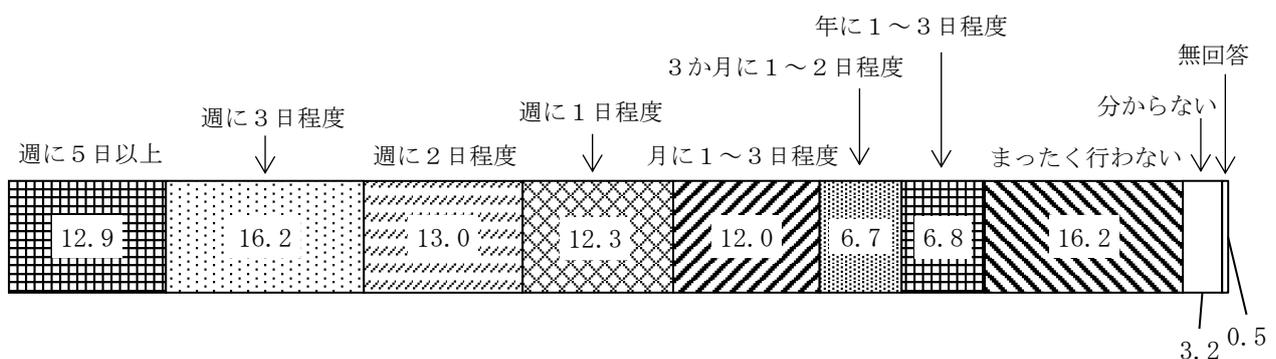
10 スポーツ（問 24～問 27）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼1年間のスポーツ実施日数（問 25）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」と「まったく行わない」が16.2%と同じ割合で最も多く、次いで「週に2日程度」が13.0%であった。[図表 10]

図表 10 1年間のスポーツ実施日数（n=1,905）（%）



11 とともに生きる社会かながわ（問 28～34）

平成 28 年 7 月に県立の障害者支援施設である「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

▼「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（問 29）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（5.5%）と「言葉は聞いたことがある」（22.8%）を合わせた《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》は 28.3%であった。

一方、「知らなかった」が 70.2%であった。〔図表 11〕

図表 11 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（n=1,905）（%）



《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》

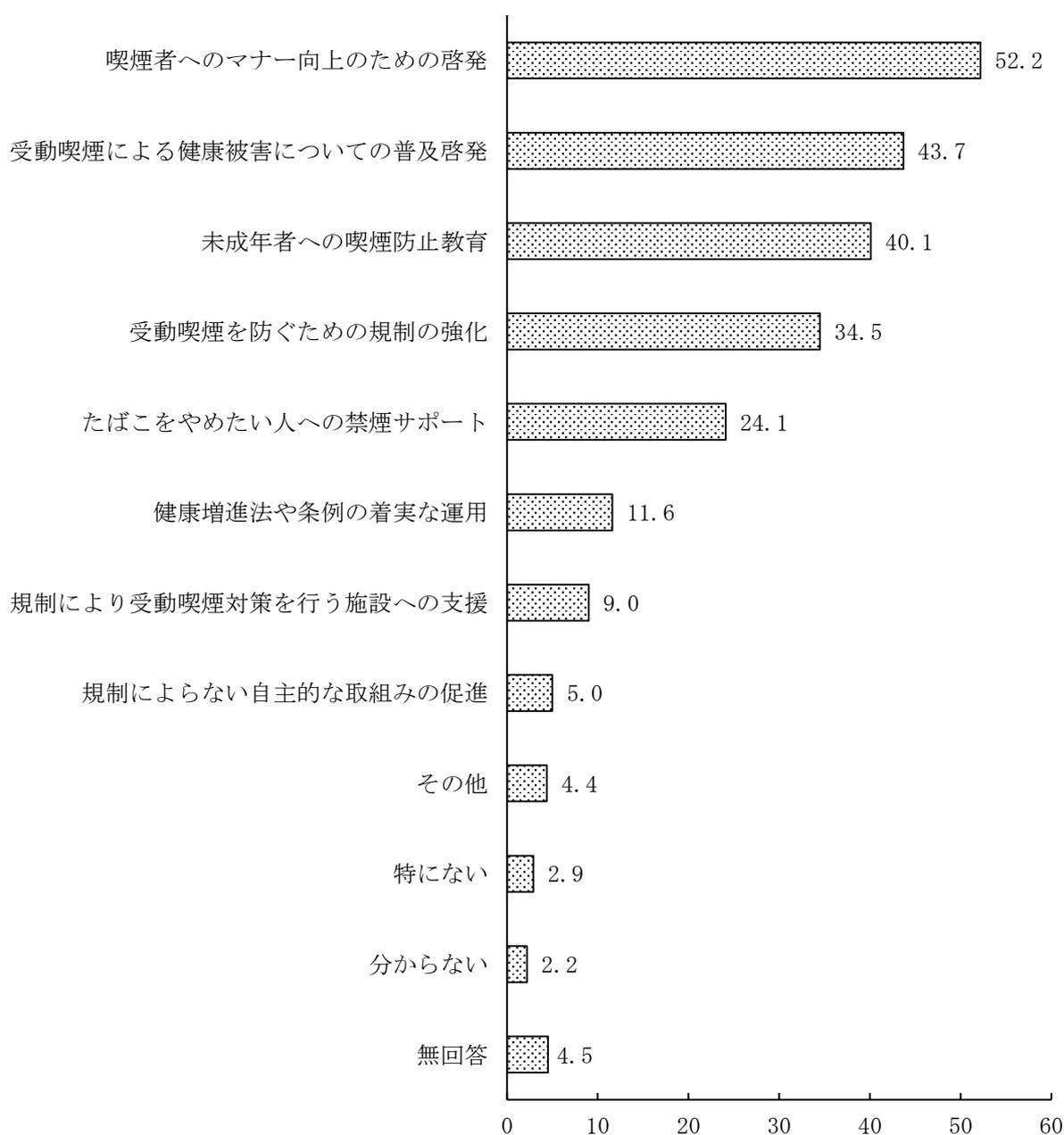
12 受動喫煙（問 35～37）

県では、健康増進法や神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例に基づき、生活習慣病などを発症するリスクの減少を目指して、望まない受動喫煙の機会を減らす環境づくりに取り組んでいます。今回、受動喫煙を防ぐために、県に期待することなどについて調査しました。

▼受動喫煙を防ぐために、県に期待すること（問 37）

受動喫煙を防ぐために、県にどのようなことを期待するか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「喫煙者へのマナー向上のための啓発」が 52.2%で最も多く、次いで「受動喫煙による健康被害についての普及啓発」が 43.7%であった。〔図表 12〕

図表 12 受動喫煙を防ぐために、県に期待すること（複数回答）（n=1,905）（%）



13 肝炎対策（問 38～問 39）

県では、「神奈川県肝炎対策推進計画」を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 39）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 16.9%であった。一方、「ない」が 60.8%であった。〔図表 13〕

図表 13 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,905）（%）

